

骨髄幹細胞に 脳梗塞治療効果

昭和大など仕組み解明

脳梗塞脳卒中を起こしたマウスに骨髄の細胞を投与すると、脳内の免疫に関係した「マイクログリア」と呼ばれる細胞が活性化し、神経細胞へのダメージが減ることを、昭和大と米チュレーン大のチームが明らかにした。より効果のある脳梗塞の治療法開発に結びつくと期待される。米科学アカデミー紀要電子版に掲載された。

骨髄の中には骨や筋肉などに成長できる幹細胞が存在する。研究チームは脳梗塞を起こしたマウス

に、人間の骨髄幹細胞を注射。すると、神経細胞が死ぬ数は何もしない場合より約3割減った。この現象自体は以前から知られていたが、詳しい仕組みは不明だった。

研究チームが詳しく調べたところ、骨髄幹細胞の投与によって脳のマイクログリアが活性化し、神経細胞を守る物質（IGF1）や、炎症反応を抑える物質（Ga1-3など）が分泌されることがわかった。

塩田清二教授は「マイクログリアは、炎症にかかわる悪玉とされていたが、神経細胞を守る働きもあることがわかった。脳梗塞患者に自分の骨髄幹細胞を投与する臨床研究を早ければ来年にも始めた」と話している。